

# インターポート

兵庫教育文化研究所だより

No.209

2019年12月23日

発行所 兵庫教育文化研究所  
〒650-0004

神戸市中央区中山手通 4-10-8

## ペリー来航がもたらしたものは？

社会科教育部会

社会科教育部会が、明石市において中学1年生の「開国と日本の歩み」という単元で授業研究会をおこないました。

授業者は、事前に教科に関する調査をおこないました。それによると、半数の生徒たちが「社会は覚えることが多く苦手」「戦国時代や江戸時代に関心を寄せる生徒が多くいる一方、ペリーと開国については知っているが、何のために開国をさせにきたのかということについてはほとんど知らない」ということでした。こうした現状を把握したうえで、クイズを取り入れたり、既学習知識を活用した思考問題にとりくんだりするを通して、意欲的に学習にとりくませたいという考えで授業をおこないました。



授業は、各種の教科書で紹介されている6枚のペリーの肖像画や写真を見せ「この人物は誰ですか？」というクイズから始まりました。そして、「どこの国の人ですか？」などクイズ形式の問題に生徒たちは積極的に発表しながらテンポよくすすんでいきました。小集団の話し合いでは、6つの班に分かれ「ペリーはどのようなルートで日本に来たのか地図に書いてみましょう」とタブレット・まなボードを使って自分の考えを出し合いながら、様々な意見が交流されていました。続いて、開国した港を地図上で確認したり、開国後の輸出品目や輸入品目などを確認したりしながら、終末では「貿易が始まってどんなことが起こったのか？」ということ、班ごとに「生糸工場の経営者」「生糸工場に働く人々」「絹織物生産者（経営者）」「綿織物生産者（経営者）」「外国の貿易商人」「日本の一般民衆」の役割に分かれて、資料を使って考え、発表するという課題にとりくみました。生徒たちは、タブレットを真ん中に置いてお互いに意見を出し、予想し合っていました。授業は、クイズ形式や、班での話し合いやICTを活用したり、プロジェクターで答えを確認したり、自作のプリントでテンポよくすすめられ、50分の授業が短く感じられました。



授業後の研究協議では、授業で使われているICTの効果的な活用について、「学校全体で活用することには、全校室で使うためのWi-Fi等の環境整備やタブレットの台数などまだまだ課題があること」や、「ICT機器では答えたことや思考した結果はすぐに次々と消えていくために、生徒たちの知識の定着や思考結果を残すのにホワイトボードで記録するなど工夫をすることも大切ではないか」などと話し合われました。授業内容に関しては、「江戸時代の民衆像が以前と比べて多く変わってきたように、現在の歴史学の成果もふまえて考えていくのがよいのではないか？」「この授業後、明治維新になってから日本の外交との比較を通して、ペリーが開国を迫ったやり方は、そっくり日本が朝鮮を侵略するのに使ったことに触れてもよかったのでは？」「明治維新でグラバーが日本に売りつけた銃は南北戦争が終わって余った銃で、南北戦争がなかったら明治維新はなかったのかもしれない」「授業でも触れたように、アメリカが開国を迫った後、日本の貿易から遠ざかったのは、南北戦争やアメリカのロッキー山脈を越えて交易をおこなうのは困難であった」など、この単元の教材観について話し合われました。

(本授業の指導案は「組合員専用ページ」に掲載しています。ID、パスワードは各地域組合へお問い合わせください。)